

内閣府 地域社会雇用創造事業
地域密着型インターンシップ研修 最終報告

素材広場 第8期インターン生
ニックネーム：フジ

地震、津波、原発問題という大きな災害の中で、人々の生活は様々な場所と場面で大きな変化を余儀なくされた。直接的、間接的な影響が次々と出てくる中でも生活を続けていく必要がある。

地域社会が今後も元気と魅力を保っていくための解決策を考えていくうえで、様々な視点とスケールから現状や問題点を肌で感じ理解することが重要であるとする。

活動目的

震災後に人々の移動や、風評被害など大きく変化のあった会津の被害の状況を正しく把握し、さらに、原発の近くから非難された方々が新たなコミュニティの中で今後よりよく生活していくための支援にどのようなものが必要なのか、実際の交流や活動を通して探る。

課題

➤ 会津の現状と対応

会津らしい観光の特徴やよさ、課題とそれに対する状況と、震災が及ぼした影響を把握する。

➤ 地域コミュニティ復興

会津に移ってきた大熊町の人々が、どのような想いで暮らしているのかを知り、今後の暮らしについての問題点と可能性を考え、地域にとけこむ糸口となることを企画、実行する。

具体的な活動内容

1. 会津の現状と対応

- a【生産者】
- b【加工】
- c【販売】
- d【観光】

2. 地域コミュニティ復興

- a【東山温泉】
- b【大熊町仮設住宅】
- c【カラオケバス】
- d【カラオケバス宣伝】
- e【料理教室】

1. 会津の魅力と現状

会津の魅力や観光業の現状と風評被害の影響と対策を学び、一部体験することができた。

a【生産者】

● 築田さん 9/13,16

肥沃な土地で、美味しい野菜を作り続けている。米、果樹、野菜など季節ごとに様々な作物を育てている。

➤ 活動内容

キャベツ畑の雑草取り、枝豆、サトイモの収穫、芋煮の下準備



趣味ではない農業というのは厳しい。好きなものを作って、いつ食べれるかなあと楽しみにする、というものではなく、いくらで売ろう、どのくらい売上が上がるだろう、ということを考えながら生産する。去年から気候も厳しく、風評も厳しい。農業で働くことは好き。様々な種類の野菜をつくる築田さんは、それぞれの作物に必要な処理をし、収穫作業を行い、出荷準備をする。どれも人出が必要で、そして天候によっては一年間の努力が無になってしまうこともある。

▲キャベツ畑



▲枝豆の処理



● 渡部さん 9/14

みしらず柿と米を生産している。会社員時代を経て 50 代から本格的な農業を始めた。徹底的に良い品質のものを、商品管理し、お客様の注文を受け、発送

➤ 活動内容

柿の色づきを早めるための反射シート敷き



▲反射シート



▲渡部柿園の看板

渡部さんは、ある程度のものは誰でもできるけど、本当にいいものはこだわらないとできないんだという。ひと手間をかけることは必要で、さらにそれをうまくアウトプットして宣伝することも重要だという。農業はおもしろいけど大変ともおっしゃっていた。



▲作業の中休み

● みしま屋さん 9/15

会津地鶏を平飼いで育成し、えさにも会津のお米を使用するなどこだわりを持って、美味しいお肉を追及している。美味しさを保って消費者に届くよう加工技術も工夫している。

➤ 活動内容

肉加工処理見学、えさやり、鶏舎掃除

みしま屋さんも、加工を手作業で行い、おばちゃんたちが焼き鳥を一本一本作る。量産できない丁寧さが見えた気がした。



➤ 気付き

どの生産者も、天候に左右される大変さを感じた。また、手をかけてなんぼの職だと感じた。

それでも放射能問題で売れなくなってしまう現状がある。ただ怖いものは怖いという気持ちをなくすことはできない。今回体験したような苦労と工夫のもと作られた、とてもいいものがあるのだ、ということを広め、人々が福島というだけでとりあえず選択肢から外すのではなく、一度目を向けてもらうよう魅力をアピールしていけるよう頑張るしかないのかな、と思った。

b【加工】

● 山際食彩工房 8/17,9/4,18 かつぱらー

➤ 活動内容： きゅうりのからし漬けとワサビ漬けの製造、佃煮等の真空パック作業、お弁当詰め、大豆の草刈り、バーベキュー、

➤ 活動背景：

素材広場と協力し、美味しい農家の野菜をさらに付加価値を持たせて販売するために工夫をしている。風評被害にあった美味しい野菜を価値を上げて販売する。

➤ 学びと気付き：

実際に作ってみると、地味な単純作業も多く、商品企画から想像する花形だけではないということを改めて知り、商品化することのむずかしさを感じることができた。手間がかかることを消費者にうまく伝えることも大切であると思う。



▲お昼のカレー

● にいだや水産 8/31 漬物屋さん、ビストロ緑

➤ 活動内容： ニイダヤ水産の今後についての打ち合わせへの同席。

➤ 活動背景：

ニイダヤ水産の加工場が津波被害により浸水、真空パック機会が壊れ、事業の継続が困難な状態である。同時に原発問題により、今後新たな販路と仕入れ先開拓が必要な状況である。

片付いたニイダヤ水産の加工場▲

→魚の加工場がなく、資源をもてあまし気味のあわ島への技術移転と、新潟への販路と仕入れ先を開拓する。その打ち合わせに参加させていただいた。

➤ 学びと気付き：

現在は大変な状況にあるが、県内外から強力な応援とバックアップがあり、それを得ることができるニイダヤさんのこれまでの仕事と味と技術を感じた（食べたことないにもかかわらず）。応援する人がおり、スピード感をもって話が進んでいくことがやるしかないという心持につながっていると思う。物事を進める、ということも学んだ1日だった。

ここでニイダヤさんが事業を再開することが、周囲の復興を引っ張っていくことになる。

集められた漁船▶



▲営業中の道の駅の張り紙



c【販売】

● 古町物産販売 8/27 やすだのヨーグルト

➤ 活動内容： 古町で会津の物産販売

➤ 活動背景：

津波で被災したニイダヤ水産の技術を今後も保っていくために必要不可欠である真空パックを寄付することを目標として、売上金を積み立てている。

新潟の古町において福島の会津がめげずに頑張っているというメッセージを外に出して、応援してくれる人を増やしていく、新潟の商店街を活性化させる。

➤ 学びと気付き：

飲むヨーグルトと梁田さんの畑で前日に収穫した桃を持っていったため、それを中心に販売した。ヨーグルトは翌日に持ち越したものの、桃は完売できた。

結局説明できる商品しか売れなかったのも、商品の説明、それができるまでの工夫など知識が必要。値段も覚えていないと迅速な対応ができず、お客様を待たせることになった。



▲この日の商品棚

想像していたより足を止めてくれ、応援の意味で購入してくださる人も、魅力的な商品として買ってくださる方も両方おり、両方の存在がありがたいと感じた。大切なのは商品の説明でどれだけ、面白さや良さが伝わるかである。

d【観光】

- フィールドワーク 8/15-8/16 じゅうねん、あかべえ、はいからさん

- 活動内容： 会津の街中、大内宿散策

- 学びと気付き：

ユニークな歴史、街並み、伝統工芸（塗、染、焼き物）、農作物（果物、牛乳）、加工品（みそや酒等）など、今まで見た観光地の中では、売りがとても多い方で、とても魅力にあふれる街であることが分かった。



▲大内宿の街並み

- 東山観光協会 8/14-8/16 会津磐梯山は宝の山よ～

- 活動内容： 観光協会の方の案内のもと温泉街視察

- 学びと気付き：

以前から厳しい国内観光業に加え、風評被害による観光客の減少が懸念されている。

- 観光協会、自治体の対応、宿の工夫など

古い街並み作り→1階部分の外装を整える。

大型客から個人客への移行→大宴会場を小さく区切るような改装をする。

- 大きな旅館と観光の重要性

集客、雇用創出（従業員、取引先企業）など、地域の中で大きな影響力を持っている。

この地の産業の重要な部分を占めており、自治体の中でも要となっている側面もある。

観光地においてはお宿さん一軒に重みがあるように、地域の全体の中で何がキーでどういう位置づけにあるのか理解することが必要である。

- 山形屋料理ミーティング 8/30 料理は脳で食べている

- 活動内容： 旅館のメニュー打ち合わせへの同席

- 活動背景：

料理は旅館の満足度を上げる上で重要である！！ 同じ料理をよりおいしくする工夫が必要となる。

前情報で味は変わる、ということで親方とおかみさんと横田さんが見た目と旬にこだわりながら料理の出す順番や品



▲山形屋の 9 月のメニュー

を決定してゆき、それをどうお客様に説明するかという打ち合わせだった。

- 学びと気付き：

料理の裏の親方のこだわり、素材の選択と経緯、工夫を垣間見ることができるよう配膳

の際に説明するという配慮があることで断然宿の価値が上がるというのには、納得できた。ミーティング前後では料理の1品1品への視線が熱くなり、よりおいしそうに見えるようになった。

● 観光復興キャンペーン 8/26

- 活動内容： 宿の復興キャンペーンプランHPプラン登録確認
ラーメンツアー参加

- 活動背景：

観光協会と素材広場、宿や生産者さんが提携して会津に人を集めるためのキャンペーンを実施している。

プラン登録については、宿泊のお客様に会津の自慢の品を贈るという試みで、会津復興のプランがキャンペーン開始までに宿のサイトに登録されていることが必要不可欠である。キャンペーンを期待したお客様が宿泊してみたらキャンペーンプランがない、ということになると会津の観光全体の信用問題にかかわるため、チェックを行った。

ラーメンツアーについては、風評被害での観光客減少を食い止めるため、会津に県外から人を呼び、その口コミから会津の良さを広めてもらうことを目的としたラーメンチケット企画の皮きりイベントである。

- 学びと気付き：

宿それぞれが、宿泊プランを作っていること自体実は知らなかった。また、業者に依頼したり自作など、プランを作り、サイトをアップするためにも様々な戦略が存在することが分かった。

HPをチェックしないでどこかに行くことがほとんどないので、わかりやすい情報量やデザインが大切であると思う。ネットをいかにうまく活用するかがということが何に対しても重要であると再認識した。

ツアーではラーメンを食べに行く道中で、魅力的な蔵の街を通り、発見があった。ラーメン+αの喜多方の良さを発見するよい機会だと思った。リピーターを作るには、いかに売り（期待）+αをお客さんが感じられるかということが大切であると思う。



▲喜多方ラーメン

● モニターツアー

とりあえず、本当にお疲れさまでした！！！！！！

- 活動内容：

モニターツアー下見&スケジュール作成の序章

- 活動背景：

風評被害をうけ、深刻な観光客激減という状況に打ち勝つために、福島安全性と魅力

を首都圏の人々に伝えるために、メディア関係者を主とするお客様を会津に呼び、現状を理解してもらい、福島を応援してもらうためのツアー。

➤ 気付き：

自分が見て体験した会津の魅力を含め、伝えたい会津の現状というものはたくさんあるが、それをこのようなツアーという限られた条件、時間の中で最大限伝えるのには、膨大な努力と協力が必要であることが分かった。

モニターツアーの一コマ一コマが重要なため、全体を見ることがむずかしい。そんな中、努力をしてきた人々に協力すべく、おもてなしをしようと思うが、それを通して会津の魅力を知ってもらうような対応ができるかということ、やはり自分の知識が必要であるということを感じた。

全体を通しての気づき

会津にはこれまで歴史の中で作られ、続けられてきた魅力がたくさんあり、それを活かすための努力が生産者から観光客と直接かかわるところまで様々あることが分かった。このような魅力はうまく伝われば、観光客が抱く何となくの放射能への不安を吹き飛ばすものだと思う（不安が強い人に対しては難しいけれど）。この観光地を主に食という視点から一カ月見ることができたが、いかに生産者レベルの努力を、付加価値をつけて観光客に魅力的にアピールしていけるか、ということがとても重要であると感じた。

また、地域が食を通してつながるというのがどういうことなのか全体を見ることで少しわかった気がする。個々のオリジナリティとともに、この結びつきの独自性というのも売りになるんだなあ、と感心した。ほんの一部だが、宿と農家や素材広場と他の生産者さん、加工者さん、お宿さんなどの結びつきを見て、この独自性をうまく売り出し、地域に広めていくというのが地域づくりなのかなあと思った。

3. 地域コミュニティ復興

会津若松に避難してきた大熊町の人々の暮らしについてのヒアリングや、被害にあった方への支援などに参加させていただくことができ、よりよいコミュニティを作るために今後自分たちができることを実際に企画し始めることができた。

a【東山温泉】 8/14-8/16 おはら庄助さん

- 活動内容： 昼：会場設営の準備
祭：振舞酒、ビール、お菓子配布、
盆踊り審査の手伝い、ゴミ拾い

➤ 活動背景：

東山温泉では、多くの宿が避難者の受け入れをしてきた。例年と状況が違う中、風評被害が悪化しないよう観光協会が主に

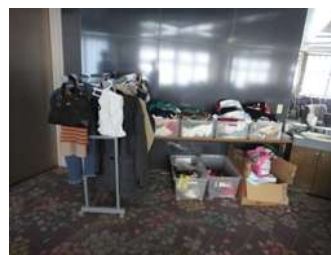


▲宿の被災者掲示板

なり盆踊り祭を例年通り行うことになった。その中で、避難してきた大熊町の方々が、今年も盆踊りを踊れるよう、大熊町の盆踊りが最終日に企画されていた。

➤ 学びと気づき：

静岡の地元では盆踊りはあまりなじみのないものであったのに、東山では若いギャルからおばあちゃん、おじいちゃん、そして芸子さん、と様々な人が輪を作っており、地元の伝統がつながっていくって面白いものだなと思った。大熊の人々は大熊の踊りを知っており、地域性とコミュニティが支えあっていると感じた。こんな時だからこそ、故郷の踊りというのが、大熊の人々に元気を与えているという感じがした。



▲ 支援物資



▲ 盆踊りのやぐら



大熊町の子供と東山の若駒▲

b 【大熊町の仮設住宅】

原発問題で大熊町は全戸避難となった。

仮設住宅は現在市内に 9 か所存在し、さらに市内で 2 か所の建設が進んでいる。さらにいわきにも建設中である。大熊町役場は、合同庁舎の向かいの公民館に設置されている。

仮設住宅の募集は、大熊町に元から存在した行政区ごとに行われ、行政区長の抽選により、居住地が決定された。松長に限っては、戸数が多く、満室とならなかったため、行政区の枠をとって再募集している。

仮設住宅は 2K、2DK(30 m²程度)である。ペットを飼ってよい。家族が多い場合は複数戸を借り、別れて住んでいる。基本的に壁に穴をあけると耐震基準を満たさないため開けられない。耐震基準という面から、2 年間しか住めないことになっているが、帰ることができないという点で、自立とは程遠いため、もう少し長くなる可能性はある。現在東山温泉に 500 人くらいの避難者の方が生活しており、いわきと松長のさらなる仮設住宅の完成を待っている状態である。家具は赤十字と町から支給されているほか、各自一時帰宅の際に持ち帰ってきたものがある。

表 仮設住宅ごとの戸数

No.	施設名	建設戸数 (戸)
①	松長近隣公園	240
②	松長 5 号公園	19
③	扇町 5 号公園	15
④	河東中学校建設予定地	83
⑤	扇町 1 号公園予定地	82
⑥	亀公園	30
⑦	真宮工業団地内緑地	18
⑧	城前	21
⑨	東部公園	50
⑩	城北小北	52

c【カラオケバス】 8/28 テレサテン、おまえ、あなた。

➤ 活動内容： 仮設住宅のカラオケ巡回バス運行の手伝い、被災者の方へのヒアリング

➤ 活動背景：

被災者の方々が、仮設住宅に移り以前のコミュニティと離れてしまったなかで、新たなつながりを作るための手助け デュエット中のご近所さん▲として、交流の場所を提供するという意味で始まった。

➤ 学びと気付き：

被災者同士をつなげるつもりで始めた活動だったけど、町内の人と仮設住宅の人とをつなぐ機会にもなっている。自治会長など、行政組織もしっかりしてきた今、近所づきあいも固まりつつあると思う。ここで人付き合いを広げる場があることは、とてもよいことかな、と思う。自宅に戻ることでできない大熊町の方がこれからしばらくここで生活していくためにこの地域に溶け込む足がかりとなると感じた。



代表の川副社長とバス▲

カラオケバス 榎葉町仮設住宅@美里町 9/12

榎葉の仮設住宅の人々が、自分たちのお祭りを開こうと住民みずからボランティアで活動し、会津の民謡演奏を招待し、カラオケ大会、美里町のゲスト演奏、そして榎葉の盆踊りを行った。

カラオケバスの一環として機械を貸出、景品を渡しながらカラオケをした人対象にヒアリングを行った。また個人的に、来てくださった方や、運営委員のかたにお話を伺った。

d【カラオケバス勧誘】

仮設住宅の持つ問題点

→**仮設内** 同じ地域出身者がかたまるように配慮されているとはいえ、必ずしも知り合いというわけではない。以前お付き合いしていたご近所さんが近くにいるとは限らない。

→**町内** 仮設の立地。新興住宅地、郊外の仮設住宅においては、地域の人々との交流がなく、地域に溶け込むことが難しい。

このような話を聞いており、実際に仮設がどういう現状なのかの把握と、カラオケバスの宣伝として、市内の仮設住宅を訪問した。

➤ **松長近隣公園**

大規模な仮設住宅で、3つの行政区が集まっている。住宅地の真中であるが、山の上にあるため、車がなくては不便である。冬が心配され、入りたがらない人もいると聞いた。

区長さん ご夫婦カラオケ大好き。

集まり 決まった集まりなし。ただ、仲の良い人々が集まってお月見をしたり一緒に銭湯に行ったりしている。

また、松長の町内会の総会に、仮設住宅の人々も招待され食事をしながら話し合いをしたという。

カラオケバスに関しては大喜びで、すぐに他の人にも話を持ちかけてくれた。区長の奥さんたちはこの前カラオケボックスに出かけたという。近所の中のよい人たち、特におばあちゃんたちは、縁側に座っておしゃべりをしている。

区長さんの家の前には、人々が集まって飲み物を飲みながら話す場として「サロン」が作られていた。

区長さん宅の「サロン」▶



▲仮設住宅



➤ 松長 5 号公園

世帯数が少なく、病院通いの方が多い。

区長さん カラオケ大会の話をしたところ、病人が多く、まだカラオケというところまで元気がない

集まり 大熊の先生をよび、健康体操企画中。仮設の中では一番早く実施できそう。

区長さん以外の方に話を聞いたところ、みんな老人会なんか

でカラオケを歌っていたから大好きなはず。元気はある。誰かが歌いだせばみんな歌うからぜひカラオケバス実施してほしい、と言っていた。

松長から眺める会津盆地▶



▲仮設住宅



➤ 城前

カラオケバスで行ったところ。

区長さん 東電の方で、仮設の人々がどのように生活し、何を思っているのか知る必要があるという思いから職場は遠いが仮設住宅に進んで入った。ほぼ単身赴任状態のお父さんの代わりに奥さんが活動している。

集まり お茶会（火曜日から土曜日まで集会場で開催）。ここ最近はずっと人数が減っている。おしゃべりだけでなく手芸とか、何かしらの目標があった方がよい。元気玉プロジェクトの人々が活動してくれている

自治会長さんが回覧版をまわして仮設内の交流を図っている。不用品交換会を予定しているほか、冬場には鎌倉の年越し大会をしたい。



➤ 扇町 5 号公園

区長さん 若い人が来てくれることは大歓迎

集まり おしゃべりサロン（毎週水曜日 10 時から 12 時）場所が便利なこの場所には、同じ自治区の病院通いの人が多く住む。同じ地区の他の人は松長の団地に住む。毎日いろんな病院に行って、透析を行っていたりして、みんなが集まることは難しいこともある。そのため日にちを帰ることも考えているが、とりあえず今月は水曜。毎回行政の方や、会津大学の学生など外部の人が参加。カラオケバスも検討してみる、とおっしゃっていた。

➤ 扇町 1 号公園

子供が多く、比較的外に人がいて、活気があった。

区長さん あまり話ができなかった。

集まり なし。

おばちゃんが、先日入居して顔しか知らないという人にも積極的に話しかけていて、この仮設は活気あるのよーと言っていた。

→カラオケバスは日にちを決めてしまって、周知し、開催する方がよい仮設住宅もある。少し強引でもよいのでは？？

➤ 大熊の人々の不安

仮設は家？？

これから何年住むかもわからない。3 年くらい住めるというけどその後どこに行くかもわからないし、もしかしたら来年磐城あたりに移動するかもしれない。腰を落ち着けるべきなのか、やはり仮住まいとするべきなのか。

仮設と思ったって、今後何年かはすむことになるのだから楽しまねば。花等を植えようと思う。

仕事がない

農家だったけど土地がなく、これまでやってきたことがほとんどできない。

時間を持て余すのが一番つらい。

クリーニングや、塗装の仕事だった人は、仕事を少しずつ探してきている。

e【料理教室】 8/30,8/31 かけばつと

➤ 活動内容： 大熊のお母さんに料理を教わり、またそれを通して交流する。

➤ 活動背景：

9 月の 2 次避難場所としての宿の閉鎖を前に、大熊町の人々が 2 年間居住可能な仮設住宅に引っ越している。いつ故郷に帰れるか見当もつかず、会津若松である程度の期間生活をしていくことになる。人との交流の機会を作ろうにもとっかかりが難しい。

仮設住宅内では、同じ部落出身だが、もとからのご近所が集まったわけではなくそれほど交流がない。仮設内で時間を持て余してしまうのがとてもつらいという話を伺った。

一方公民館では、ダンスなど、町内のおばちゃんたちが集まるイベントがたくさん行われていた。このようなイベントが仮設の人々の間でも広まり、いずれは町内と仮設一緒になって活動できたらよい。

そこで、仮設住宅の方々をこちらから助ける、という方向ではなく、こっちが何かしてもらおうという発想もこめ、大熊町のお母さんに私たちが教わる料理教室の企画が始まった。

料理教室企画の流れ

- ✓ 聞き取りから料理上手な人材探し
- ✓ 公民館の会場確認
- ✓ 自治会長さんに開催についての説明
- ✓ 料理の得意な方への依頼
- ✓ 日程調整
- ✓ 実施

目標 今後複数回の実施を目指して、始めの一回を小規模で行い、今後どのような継続の方法があるか検討し、仮設住宅の人同士の交流や町内の人との交流につなげていく。



料理教室当日

かけばつとという岩手の郷土料理と、北海道の母の味の混ぜご飯を教えていただいた。かけばつとは、すいとんのようなもので、こんにゃくと豆腐とともにゆがき、にんにく味噌に付けていただいた。混ぜご飯は、ニンジン、ゴボウ、いところなどを炒めて味付けし、ご飯にまぜた。両方とも、とてもおいしかった。量が多かったが、寮に持ち帰り、2種類の料理にアレンジしていただいた。

自身の段取りの悪さと、連絡不足から、滑り出しは冷や汗ものだったが、料理を教えていただく段階では、適度な人数でスムーズに進んだ。会食では、人数も多く楽しめたと思う。

料理教室を開くにあたって、大熊のお母さん方のところには何度かお邪魔させていただき、いろいろなお話を聞きながらお茶をごちそうになったりと、大変お世話になった。

本当にありがとうございました。

仮設に入らなかつたらあなたたちとも知り合えなかった、と言って私たちの活動を前向きにとらえ協力してくださったこと、感謝がたえません。

全体を通しての感想

中間報告時点で：

観光復興としては、観光客の視点と、少々の宿や地元の観光促進をはかる側の視点で会津を見ることができた。風評被害に関しては放射能の影響を気にする人は、自分が信用する情報がある程度集めていると思うので、安全です、という言葉そのまま鵜呑みにするとは思えない。それよりは、なんとなくやだな、と会津や福島を避ける人に対しては魅力を前面に伝えることの方がよい気がした。

現状を伝えるというのは、震災後の復興のための努力を伝えるだけではなく、もともとの土地の魅力と背景を正しく伝えて、その魅力がどのような苦勞で支えられてきたのか、それにどういう影響が今回加わりどう対応しているのか、という理解の仕方が必要だと考える。

今後自分なりにまとめていきたい。

地域コミュニティ復興については、やはり近所づきあいのような小さなことから、少しずつ地道に広げていくのが結局一番良いと思う。そのためのきっかけづくりならば、外から来た私たちができることの一つと思うので実施していきたい。

研修が終わり震災後について私が意見を述べる場所があるとしたら、学術関係の専門家の集まりという機会が多い。技術や理論と、現状が剥離しないようにのりづけの役目をはたせるよう、ここで得た情報や体験から学んだ情報を広い視野で説得力をもって伝えられるように濃いものにしなければと思う。

最終方向時点：

会津という土地で、様々な魅力と、それを活かしていくための努力を感じることができた。また、地震でその土台が揺らいでいる今もそれを支えるために本当にたくさんの協力と努力があることを知った。それができるのも、この土地の土台の強さがあってこそであると思う。地域の個性とつながりというのは、本当に重要だと実感した。

その分、人のつながり以外の土台をすべて失ったともいえる大熊の人々がこの土地で会津の人々とお互い住みやすく過ごしていくというのは、ただ大熊の人が会津にとけこむ、という単純なものではないのかな、と思う。大熊の良さや地域性を大切にしながらこの土地の土台を共有し、それぞれの個性をいかしていくのは本当に難しいと感じた。

といいつつもいずれの仮設住宅も、自治会が 8 月の後半にできたところで、やっとコミュニティとして動き出している時だと思う。この時期だからこそ新しい動きも定着しやすいかもしれないし、まだ、生活が落ち着いていないため参加してくれるチャンスを作りやすい時期と思う。

会津の人と大熊の人、双方戸惑いを持っているが、会津の町内は、イベントのときなどには大熊の人を招待し、交流のきっかけを探している。

今回様々な仮設を訪れ大勢の方にお話を聞いたことや、東部公園のお母さん方が私たち

の活動もとても前向きにとらえてくれ、外の人とかかわることをうれしがってくれるということから、地道でも、交流の場所を作ることは結構重要なことと感じた。

お互い付き合いが深まれば戸惑いもある程度解消されるのではと思う。

やっぱり一番大きな土台は人づきあいということ。

仮設の人々の話を聞くと、現在の状況の捉え方は、人により前向きであったり、つらく感じられたり、不安にあふれていたり、希望を見つけようとしていたり、さまざまであった。大熊の人々がおかれた状況の不安定さを思うと、このような想いは、人によっても、その時によっても異なるものであると思う。そういう不安定さがあることを周りが理解し、少しでも生活が落ち着く、ということに近づくような手助けが必要である。

もう少し時間があったら、会津の町内の方と、大熊の仮設の方一緒に楽しめるイベントやきっかけづくりをしたかった。